

小中一貫教育、CS・地学協働のさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.71 R7.2.28

幕別町教育委員会 学校教育推進員

雪の少ない冬と油断していたところへの歴史的な大雪。帳尻が合うどころかお釣りがくるほどの降雪に大きな影響を受けた2月となりました。その後の暖かな陽気で積雪量は次第に減っていますが、早く春が来てほしいと切に願う今日この頃です。

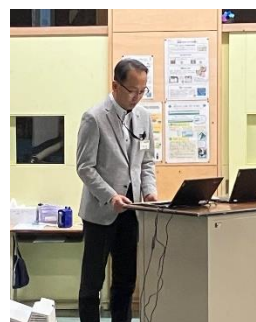
この時期、各学園では運営協議会で来年度の学園・学校経営方針の承認が行われ一足先に新年度が開始されます。町全体の小中一貫教育・CSも第2回連絡会議で今年度の振り返りを行うことができ、軸足を次年度へと変える時期となりました。

今月は、その第2回幕別町小中一貫教育・CS推進連絡会議の報告です。

第2回小中一貫教育・CS推進連絡会議開催 2/6

2月6日(木)、第2回小中一貫教育・CS推進連絡会議が白人小学校多目的ホールを会場に集合形式とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。はじめに 笹原敏文教育長が教育委員会を代表して挨拶し、各学園が互いの実践を自分事として学び、学園の運営に生かしていこうと呼びかけました。

次に久保睦則会長(まくべつ学園長)の司会・進行で議事に入り、CS・地学協働活動推進委員会報告と各学園からの活動報告を行いました。



推進委員会、各学園からの活動報告

CS・地域学校協働活動推進委員会からは、今年開設されたオープンチャットルームの説明と現状が報告されました。まだ参加者が少なく意見交流はできていないとの報告でしたが、参加の呼びかけに会場からすぐ参加する方もいて、一層の周知が力ギになると感じられました。

まくべつ学園からは、令和8年度の義務教育学校開校に向けての取組が報告されました。これまでの学園組織に加えて開校に向け開校部会を設置し、小中一貫教育推進と開校準備業務を同時に進めているとのことでした。

義務教育学校開校は、単に同じ校舎に小中が入るといった単純なものではなく、これまでのシステムや慣習の違いをどう統合していくかという難しい課題を抱えています。様々な条件の違いから先進事例をそのまま流用することはできず自分たちで納得解を見つけ出さなければならないことから、幕別の子ども達のために時間をかけて丁寧に話し合うことを大事にして部会ごとの検討が続いていますが、膝を突き合わせて話し合うことで次第に建設的な話し合いができるようになったと言えます。考え方の基盤として、今あるものを最大限生かして作り上げよう、改善策を考えようとする「解決志向アプローチ」と試行錯誤してだめなら変えよう、修正しようとする「Trial and Error」が掲げられています。また、会議が多くなることから、各校の職員会議を2か月に1回とし議題の要点整理やサイネージ(デジタル掲示板)を活用した情報交換など負担軽減の工夫をしているとのことでした。足並みを揃えることに時間を割くのではなく、可能な取組があれば次年度からすぐ実施、との柔軟な構えで進めていこうとしている、と力強く報告されました。



続いて**糠内学園**から、初めに小中一貫教育の取組として乗入授業と他地域交流について報告され、そのあと地域学校協働本部の取組の様子や諸鈍小中学校との今後の交流について報告されました。

軌道に乗ってきた中学校登校による乗入授業では、6年生が中学校に3日間全日登校し中学校生活を体験しながら中学校教師の授業を受ける取組を1学期と2学期に1回ずつ行い、給食を一緒に食べて交流を深めることもできたと言います。複式学級の5年生は、その3日間に糠内小学校で合同授業を受け、小学生同士の交流を深めているとのこと。諸鈍小中学校との交流で今年度小学生が司会進行を務め大いに盛り上がった様子も報告されました。

続いて運営協議会の橋詰会長から、運営協議会委員が手分けして各学校で運営協議会活動の説明を行ったこと、今年度で退任する運営協議会委員にサポーターとして今後も地域学校協働活動に協力してもらうこと、諸鈍小中学校と交流で実際に現地を訪問して交流できるよう取組を進めていることが報告されました。行動する糠内学園として今後も進化を続け、子ども達のために何ができるかを考えていきたいと力強い報告がなされました。



さつない学園からは、児童生徒のたくましさに課題が見られることから、たくましさを伸ばすために地域と連携して何かできないかと考え、CSの取組を充実させたこと、小小連携と同時に実施した乗入授業の様子、今年度の成果と課題が報告されました。

まず、運営協議会で、委員が実際に視察した先進校の様子をみんなで学び合い、さつない学園で何ができるかアイデアを出し合って秋のあいさつ運動に取り組んだことが報告されました。参加者は多くはなかったが小中一貫教育の理解を地域に広げるきっかけとなったとのこと、来年はもっと輪を広げる取組をしたいと報告されました。次に、参観授業交流や小小連携合同授業への乗入授業の様子が報告され、中学校の学びは小学校の学びが土台になっていること、考えることが学習のポイント、復習が大事で今のうちから習慣化を、などの指導で中1ギャップの緩和を図ったとのこと。今年度、地域あいさつ運動や小中学生指導交流会の定期開催など新しい取組ができたことや乗入授業、学び講座が充実したことが成果として、地域へ輪を広げることや児童生徒のニーズに応える取組を検討することが課題として報告されました。

札内東学園からは、目指す子ども像実現に向け各組織が自走するようになった小中一貫教育の様子、ふるさと学習・キャリア教育を支える学校ボランティアや地域団体との連携を中心とする地域学校協働活動の様子、学校経営に直結する熟議がされている運営協議会の様子が報告されました。

定着した中学校登校をはじめとする取組も各部会中心で実施されるようになり、ロイロノートの学習会も学園単位で行っているとのこと。地域学校協働活動では、「チロッター」（白人小）、「きたよー」（札北小）の学校ボランティアがそれぞれ特色ある活動を進め、中学校では役場防災環境課（1年防災学習）、足寄消防署（2年宿泊学習での防災学習）との連携による学習が紹介されました。運営協議会での「目指す子ども像に迫るために家庭・地域・行政で何ができるか」をテーマにした熟議の様子も紹介され、常に目指す子ども像を意識した取組が印象的な報告となりました。



ちゅうるい学園からは、かぼちゃプロジェクトをはじめとする様々な取組の中で前進したこととして、ナウマン記念館の小中合同見学と今年度から始まった生徒指導・特別支援交流が報告されました。新しい化石発掘という半世紀ぶりの大発見に沸くナウマンゾウ記念館を小6と中2が合同で見学するなど、地域の宝であるナウマン象を通して一貫教育が行われていると言います。また、小中の生徒指導担当者と特別支援教育コーディネータが隔月で情報交流会を開き、様々な情報共有が進んだことが報告されました。CS の取組では、小学校のふるさと学習として取り組んできたシーニックカフェ学習に、今年度は中学校も地域活性化探究学習として参加し、中学生が発案した「カフェに大きなブランコ設置」のアイデアがちゅうるい事業協同組合の協力で実現、そのブランコの名前を小学生が考え、中学生が選考して決定という取組が生き生きと紹介されました。地域と一体となって進められている小中一貫教育とCS の様子がよくわかる報告でした。



忠類小学校会場からリモート報告



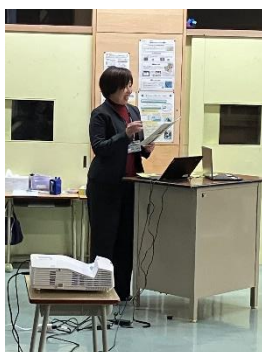
質疑応答コーナー

各学園からの報告の後、グループ協議を行い他の学園へ質問したいことを話し合いました。休憩をはさんで質疑応答に入りました。

初めにさつない学園から、地域学校協働本部をもつ糠内学園と札内東学園に、学校と地域の要望を調整する役の人がいるのか、との質問がありました。糠内学園からは、「運営協議会の委員に地域学校協働本部のメンバーを兼ねて両方やってもらい、委員退任の時はサポーターになってもらい地域と学校をつないでもらうことにしている。うちのやり方でできることを考えて作った仕組み。」との回答。札内東学園からは、「6つの企業・団体と連携して小小連携合同授業を行っているが、白人小では教務部に地域学校協働活動担当の教職員を置いて、その先生を中心に企業・団体やチロッターの調整を行っている。札北小では教頭が中心となってきたよ一の調整を行っている。」との回答がありました。



次に、札内東学園から糠内学園に、乗入授業で授業だけではなく給食も一緒というのはどんな日程かとの質問があり、これに対して「中学校登校3日間を年2回行い、その中で乗入授業をしている。朝から帰りまで中学校で過ごす。子ども達のアンケートでも好評である。」との回答がありました。



糠内学園からは「さつない学園のあいさつ運動がとてもよく、糠内学園でもやってみようかとの声が出ている。糠内学園の子ども達はあいさつするが声が小さい。違う学校に先生が言ってあいさつ運動をするアイデアも出されている。」との感想が述べられた後、ちゅうるい学園に対して小中合同の取組をどのように実現したのかとの質問が出されました。ちゅうるい学園から、運営協議会がコーディネータ役となって調整機能を果たしてくれている、と回答がありました。

最後に、ちゅうるい学園からさつない学園へ合同あいさつ運動は何回くらい実施しているかとの質問があり、「児童生徒による合同あいさつ

運動は年4回やっているが、地域との合同はまくべつ学園の真似をして今回初めて1回実施した。人が集まらなかったことが課題なので声かけの工夫をするなど取組を強めたい。」と回答がありました。

閉会とまとめ、振り返り

会議の最後に、横山副会長（札幌東学園長）の閉会挨拶があり、「幕別町他学園からの報告は参考になることが多く学びは大きい。地域と一緒に未来を創るCSの土台は確実に進歩している。これからがんばろう。」と明日への活力が出るまとめがされました。

会議終了後、各学園で振り返りの話し合いが行われ、流れ解散で全日程を終了しました。

Google Meet を使ったのオンライン会議も3回目となりスムーズに進行できるようになってきています。端末の前に来て発言する、という原則が徹底され、忠類小会場にも声がしっかり届いていたと聞いてほっとしているところです。一部、白人小会場での音声途切れる操作ミスがありましたが、次回しっかりと対応すればこの形での進行に問題がないと思われます。

また、年々報告内容が洗練され、グループ協議の雰囲気もいっそう和やかになり内容も充実してきたと感じます。日々の取組の充実が会議内容の充実につながっていると思われます。

会場となった白人小学校には、会場設営から Google Meet の接続まで様々なご協力をいただき、リモート会場の忠類小学校にも接続のリハーサル等々で多大なご支援をいただきました。紙面をお借りして心から感謝申し上げます。今後、各学園から寄せられるアンケートをもとに改善を図り次回会議に備えたいと思います。

発表資料を作成していただいた各学園のコーディネータと事務局の皆様、会議に参加された方々のご協力に感謝いたします。

ありがとうございました。



小中一貫教育・CS関係 3月の動き

- 5日(水) さつない学園運営協議会
- 6日(木) 札幌東学園運営協議会
- 7日(金) まくべつ学園会議
まくべつ学園役員会
まくべつ学園性の教育授業参観
- 12日(水) まくべつ学園運営協議会
- 19日(水) さつない学園会議
さつない学園小中学生指導交流会